



歳入・歳出額の内訳の詳細や、特別会計などの決算額、財政指標などは広報かさま10月号をご覧ください。



令和4年度会計の決算を認定

一般会計の決算額

歳入 356億6,153万6千円
(昨年度比 37億3,116万8千円 **減**)

歳出 343億0,147万7千円
(昨年度比 37億9,004万1千円 **減**)

議会は決算特別委員会を設置し、9月6日～8日に審査を行いました。この委員会は、令和4年度の予算が目的に沿って使われていたか審査し、改善点を市に伝え、今後の事業執行に役立ててもらうための重要な役割を担っています。

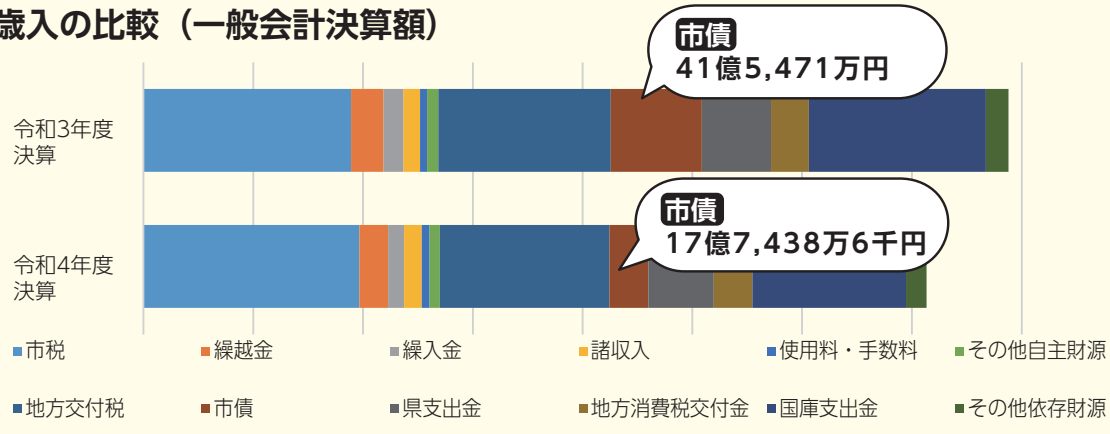
**決算特別委員会で
昨年度の決算審査
を実施**

歳入では防災行政無線デジタル化事業、道の駅整備事業、多目的広場整備事業の完了などに伴い、市債が24億円近く減少しました。

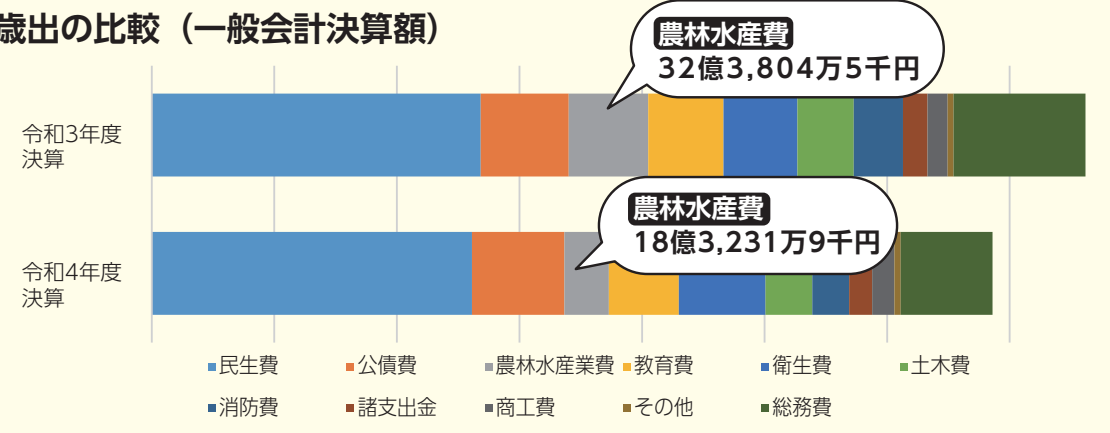


歳出では農林水産費が14億円以上減少しました。この要因の主なものは、道の駅整備事業が令和3年度に完了したことによるものです。

歳入の比較（一般会計決算額）



歳出の比較（一般会計決算額）





令和4年度決算の注目事業

総務費

DX推進関連事業
約8,318万円



DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、行政手続きのオンライン化、デジタルによる業務効率化等を実施しました。

消防費

岩間消防署整備事業
約2億1,732万円



現岩間消防署と同一敷地に建設中。業務を継続しながら建て替え工事を行っています。

衛生費

脱炭素社会実現事業
約1,773万円



脱炭素社会の実現に向けた普及・啓発等に係る経費を支出しました。

問 笠間ファン拡大に向けた広告展開業務の取り組みは（企画政策課所管）

答 移住者を取材した動画をメインに笠間市の生活を配信するなど比較的若い層をターゲットにサイトを構築している。

問 職員研修事業の内容は（人事課所管）

答 新規採用職員に対する業務等の基礎的な内容についての研修や、昇格をした職員の職責に関する研修、クレーム対応研修やハラスメント防止研修などを実施している。

決算特別委員会ではどのような質疑と答弁がありましたか？



問 高齢者クラブ事業について、会員数が減少傾向であるが、コミュニティの存続の面もあるため、地域の活動が続いていくよう努力していったほうがいい。今後の運営の在り方はどう考えているか。（高齢福祉課所管）

答 クラブ数、会員数ともに減少しているが、地域コミュニティの維持には必要な事業であるため、今後も活動を継続支援していきたい。

問 災害備蓄品はどこに収納し、誰を対象に配るのか。またどのくらい備蓄されているのか。（危機管理課所管）

答 稲田防災倉庫を拠点倉庫として備蓄しており、備蓄品は避難所において避難者に配る。被災想定人口を市民の3%として、3回分の9600食を目標に備蓄を進めている。

3日間にわたり執行部との活発な質疑応答が交わされ、最終日に討論、採決を行い、全ての会計を原案のとおり認定すべきものとなりました。定例会最終日（9月15日）の本会議で、委員長が審査結果を報告し、採決の結果、

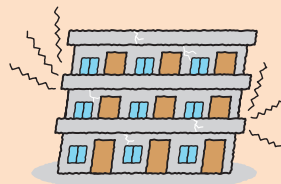
全ての決算を **認定** しました。

【決算特別委員会 委員】

- 委員長：畑岡 洋二／副委員長：林田 美代子
- 委員：長谷川 愛子・酒井 正輝・河原井 信之
- 鈴木 宏治・川村 和夫
- 内桶 克之・益子 康子

問 公民連携を踏まえ老朽化状況調査を実施した笠間クラインガルテンについて、老朽化状況調査の結果で今後も整備する箇所はあるのか。（農政課所管）

答 老朽化により躯体や水回りで修繕する必要がある箇所については、次年度の令和6年度に整備を実施する予定で、改善した上での公民連携を考えている。



問 老朽化した市営住宅はどのように考えているか。（管理課所管）

答 退去が完了した棟ごとに公営住宅長寿命化計画により取り壊すことを検討している。